令和6年9月定例会 一般質問 清川希代子議員

※代表質問・一般質問の会議録より抜粋し掲載しております。(各議員からの「質問」(問)に該当する部分を黄色マーキングしております。)

「子どもたちのリーダーシップと市民意識の育成について」

○清川希代子 改めまして、皆さんこんにちは。配信を見てくださっている皆さんこんにちは。

議長のお許しをいただきましたので、日本維新の会、清川希代子の一般質問をさせていただきます。

今年の夏も、7月、8月ともに、毎日のように熱中症警戒アラートが発令されるほど非常に暑い日が続きました。SNSをご覧いただいている方はご存じかもしれませんが、私清川は体調が万全ではございません。それでも、時間を見つけては香芝市内のイベントに出向き、市民の皆さんと直接お話しする機会を大切にしてきました。その中で、市の課題や市民の皆さんの思いを感じることができました。本日の一般質問も、私の思いと市民の皆さんの声を反映した内容です。真剣に取り組んでまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

大項目1、子供たちのリーダーシップと市民意識の育成について。

教育委員会におかれましては、日頃より香芝の教育の発展にご尽力いただき、感謝申し上げます。香芝市における主権者教育のさらなる推進についてご質問させていただきます。

日本社会において未来を担う若者が健全な民主主義を支えるためには、早い段階から政治や社会問題についての理解を深めることが必要です。主権者教育は、そのための重要な一環であり、民主主義の理解を深め、責任ある市民を育てるために不可欠な教育内容であると私は考えています。

現在、香芝市において実施されている主権者教育の内容とその成果について伺います。

壇上からは以上です。ご答弁よろしく願いいたします。

○教育部長 主権者として求められる力は、法や決まり、政治や経済、自発的、自治的な活動に関する知識及び技能、思考力、判断力、表現力など、学びに向かう力、人間性等でございます。これらを社会科、道徳、技術・家庭等の教科、特別活動等を通して育成いたしております。そして、市立小・中学校の卒業後には、それまでに育成した資質、能力を基礎として、高等学校公民科、公共という科目におきましては、主権者の育成に向けて、より具体的に社会における諸課題の解決に向けて構想する力、合意形成や社会参画を視野に入れながら、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論する力が育まれる、そういう内容となっております。

以上です。

○清川希代子 ご答弁ありがとうございます。

具体的な事例やデータがあればお示してください。

○**教育部長** 分かりやすい例といたしましては、小・中学校で行われます児童会、生徒会選挙等を通じた取組がございます。また、市立香芝東中学校におきましては、ライフプランナーを招聘して、主体的に自己の在り方を考え、意思決定をする能力を身につけさせる取組を実施いたしております。こういった日々の教育活動によって、自身が社会の一員として自分の意見を述べ、社会に影響を与えられるという認識が深まります。学校生活の様々な場面で主権者教育が実践されているとご理解いただきたいと存じます。

以上です。

○**清川希代子** ご答弁ありがとうございます。

学校生活での様々な場面での主権者教育について理解をいたしました。

では、次の質問です。

近年、社会問題の多様化や情報化が進む中、主権者教育の内容もそれに対応する必要があります。例えばデジタルリテラシーやメディアリテラシーの強化、現代社会の課題に対する深い理解の促進が求められると考えますが、このことについて教育委員会はどのように対応されているのか、伺います。

○**教育部長** デジタルリテラシーやメディアリテラシーの育成、現代社会の課題に対する理解の促進につきましては、新聞等を活用した学習が大変有効であると考えております。例えば社会科、総合的な学習などで単元やテーマに沿う新聞記事について意見を交流する学習活動などが展開できます。そのような学習活動にも対応できるように、教育委員会では各市内学校に新聞を購入いたしまして配置しているところでございます。

以上です。

○**清川希代子** ありがとうございます。

時代の変化に即対応できるメディアリテラシーの育成などにしっかりと対応よろしくお願いたします。

また、主権者教育は、教室にとどまらず、地域社会との連携を通じて実施されることが有効であると考えます。例えば地域の政治家や専門家との対話を通じた学びの機会を増やすことについて教育委員会としてはどのように考えておられるのか、伺います。

○**教育部長** 社会科の学習で地域人材をゲストティーチャーとしてお招きするのは各校で行っているところでございます。地方自治の学習につきまして、行政の専門家である香芝市各課職員に協力を求めることで学習が充実し、地域の政治の仕組みについて深く知る機会になると考えるところでございます。

以上です。

○**清川希代子** 主権者教育の充実に向けて、教育委員会として今後どのような方針を持ち、どのようなビジョンを描いておられるのでしょうか。1人1台端末の活用など、具体的な目標や計画があればご教示ください。

○**教育部長** 主権者に求められる力の育成につきまして、各教科等研究会において研修を

実施し、それらを通して教員への周知等、方策を検討させていただきます。

また、1人1台端末環境を生かす取組といたしまして、例えば授業において市職員へのインタビュー動画、国会や地方議会の様子を捉えた動画の活用などを検討させていただきたいと存じます。

以上です。

○清川希代子 ありがとうございます。

ご答弁は、具体的な方向性を示し、今後の教育の質を高める意欲的な取組をお示しくくださったと思います。今後は、この方針がどのように実行に移され、どのような成果が出るかを注視してまいりますね。

次、中項目2、こども議会についてです。

奈良県内では、奈良市をはじめ葛城市や王寺町などたくさんの市町で、こども議会や子ども模擬議会といった取組が行われております。これらの取組は、次世代を担う子供たちに政治や社会問題への関心を持たせ、コミュニケーション能力や意思決定のプロセスを学ぶ場として大変有意義なものとなっております。例えば奈良市では、子ども会議を通じて、参加した子供たちの政治、社会問題に対する理解が深まり、提言が市の行政施策に反映される事例も報告されており、地域社会の一体感や子供たちの「自分ならできる」、「きつとうまくいく」という自己効力感が確認されております。このような成功例を踏まえ、香芝市においても、仮称といたしますが、こども議会を開催することは、将来的に地域社会の活性化や次世代リーダーの育成に資するものと考えます。

そこで、お伺いします。

日常生活において、政治や社会問題に接する機会が少ないと感じております。こども議会を通じて子供たちが地域社会のテーマに主体的に関与することでどのようなメリットが期待されると考えられるのかを教育委員会に伺います。

○教育部長 社会を担っていく当事者としての主権者意識の醸成、自分自身が課題を多面的、多角的に考え、自分なりの考えをつくっていく力、また根拠を持って自分の考えを主張し、説得する力が育成されるメリットが期待されるところでございます。

以上です。

○清川希代子 ご答弁ありがとうございます。

全く同感です。未来を担う若者にとって必要不可欠な能力であり、子供たちの成長に大いに貢献するものと確信しております。

では、次の質問ですが、子供たちの視点からの意見は、大人とは異なる新しい視点やアイデアを提供することが多いと考えます。これにより、行政がより多様な住民の声を反映した施策を考える機会を得るため、行政の質の向上につながるのではないのでしょうか。特に子供や若者向けの政策において、彼ら自身の意見が反映されることで、現実的かつ実効性のある施策が生まれやすくなると思いますが、見解はいかがでしょうか。

○教育部長 議員お述べのとおり、子供や若者向けの施策におきましては、当事者である子

供たちのニーズを把握するという事は、昨今の子供をめぐる国の施策の動きを踏まえても、大変必要なことであるというふうに考えております。

以上です。

○清川希代子 ご答弁ありがとうございます。

確かに、教員の指導を基盤にすることは、子供たちが市政に対する理解を深める上で重要な役割を果たしていると私も理解はしておるんですけども、しかしながら、私としては、子供たちが自らの主体性をより強く発揮できる環境の構築がさらに大きな成果を生むと考えております。将来、子供たちが自らの意見を自発的に形成し、行政職員や地域の専門家のサポートを受けながら提言を行うような、より自主的なアプローチを導入することで、彼らの主権者意識をさらに深めることができるのではないかと考えます。これは私の意見であり、こども議会が目指す最終形態だと考えます。意見を述べさせていただきました。

次の質問です。

こども議会の活動を通じて子供たちが地域に対して積極的に関わることは、コミュニティーのつながりを強化する要素となります。こども議会に参加した子供たちは、その経験を通じて、地域に対する愛着や責任感を持つようになるため、地域の活性化にもつながると考えますが、教育委員会の見解はいかがでしょうか。

○教育部長 様々なこども議会の事例を拝見いたしますと、子供たちによる市政への提言は、教員による指導を基盤といたしまして、行政職員の助言を踏まえたものが多くございました。これらの取組は、やはり子供の主権者意識の醸成等を第一義としたものであると考えます。子供目線で考えた市政に対する疑問や改善案を提言するという学習活動を行うことで、自分たちの住むまちをよりよいまちにしたいという思いを醸成することができるものと考えます。市政への参画を促すという目的でございましたら、市長部局とも連携しながら、新たな形でのこども議会や若者議会の開催については、ぜひ前向きに検討してまいりたいというふうに考えてございます。

以上です。

○清川希代子 ご答弁いただき、誠にありがとうございます。

子供たちが市政に対する疑問や改善案を提言する学習活動を通じて、まちづくりに積極的に関与する意識を育むことができるというご認識に共感いたします。また、市長部局との連携によって新たな形での若者議会の開催を検討していただけるとのこと、大変心強く感じております。ぜひ具体的な検討が進み、子供たちが実際に参画できる機会が提供されることを期待しております。子供たちの声が市政に反映されることは、未来に向けた持続可能なまちづくりにもつながると確信しておりますので、引き続き積極的なご対応をよろしくお願いいたします。

「防災対策について」

○清川希代子 次、大項目2に移らせていただきます。

防災対策についてでございます。

先月、8月8日、宮崎県の日向灘を震源とする最大震度6弱、マグニチュード7.1の地震が発生いたしました。気象庁は、南海トラフ地震が想定される震源域では大規模な地震が発生する可能性がふだんと比べ高まっているとして、南海トラフ地震臨時情報を初めて発表しました。香芝市内でもスーパーやドラッグストアでお水やレトルト食品、トイレットペーパーや生理用ナプキンなどが品薄になったと聞き及んでおります。日頃から災害に対する備えの大切さを改めて実感された市民の方が多くおられたということではないでしょうか。

そこで、防災対策について伺ってまいります。

まず、香芝市総合防災マップについて伺います。

現在、日本語版のみ作成されている防災マップですが、香芝市には700人を超える外国人の方が住んでおり、増加傾向です。災害時に正確な情報を得ることができるように、外国語版、例えば英語表記の防災マップが必要だと考えます。外国人市民の方の安全を守るためにも、英語版の防災マップを作成する計画があるのか、伺います。

○危機管理監 本市の防災マップの直近の作成は令和5年度の作成になりますけれども、英語表記の防災マップは作成しておらず、現在作成の予定はございません。外国人の方につきましては、高齢者や障害のある方、乳幼児などと同じく、災害時には配慮の必要な方であることから、今後、防災マップを更新する際や修正が生じた際におきまして、外国語表記の防災マップの作成を検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○清川希代子 ありがとうございます。

今後の更新時に検討するとした姿勢は前向きに受け止めております。また、外国人の方々にも災害時の配慮が必要であることを認識していただき、ありがとうございます。

これちょっと気づいたんですけれども、令和5年度の決算書を確認したところ、防災マップ3万5,000部の作成に約360万円かかったと記載されておりました。この令和5年度版を作成するタイミングで外国語表記を追加されなかったことがちょっと悔やまれるんですけれども、次回の防災マップ作成時には、このご時世、印刷代の上昇も考慮すると、さらに費用がかかるかもしれません。何度も作り直すことはできないと思います。そのため、次回作成時には、今度こそ必ず英語などの外国語表記を追加していただくよう強く要望しておきますので、よろしく願いいたします。

次の質問です。

現時点で最新の令和5年度に作成した香芝市総合防災マップはどのように配布されたのか、伺います。

○危機管理監 先ほどお述べになりました防災マップにつきましては作成部数3万5,000部でございますけれども、令和6年3月に発行いたしました本市の広報「かしば」の配布に

併せまして、各世帯1部ずつお配りさせていただいたものでございます。

以上でございます。

○清川希代子 ありがとうございます。

1世帯につき1部の配布とのことですが、紛失された場合や個々で必要になった場合などの個別対応はされているのでしょうか。

○危機管理監 1人に1部となりますと膨大な量となりますけれども、世帯ごとに1部配布させていただいた後、紛失とまた追加の部数が必要というふうになるようでもございましたら、個別に申出があった場合、危機管理課のほうの窓口において配布させていただくとともに、ホームページでも取得や確認がいただけるように対応しておるものでございます。

以上でございます。

○清川希代子 個別の申出には危機管理課で対応し、ホームページでも確認できる点は効率的と理解します。ただ、そのことをご存じでない市民さんが割と多くいらっしゃいます。全ての市民さんがアクセスできるよう、配布方法や周知の工夫が必要だと感じましたので、また広報紙に掲載するなど周知をよろしく願いいたします。

次の中項目2に移ります。

以前の一般質問でもさせていただきましたが、備蓄品、特に生理用ナプキンと簡易トイレの数量を見直されたほうがよいと考えておりますが、いかがでしょうか。

○危機管理監 従来の備蓄品に加えまして、最近では避難される方が多様化しておりますので、それぞれの立場に立った整備や個人のニーズに対応できるよう、備蓄品の数量や種類などの整備に係る見直しを今後もしてまいりたいと考えてございます。

○清川希代子 備蓄品の見直しが必要とのご答弁ありがとうございます。多様なニーズに対応した備蓄整備が重要であり、今後の改善に期待しております。

次、見直しに際して、特に女性や高齢者、障害をお持ちの方など、当事者の視点をどのように反映していくお考えなのか、お伺いします。

○危機管理監 実際に見直しを行ったわけではございませんけれども、生理用品につきましては約1万5,000枚、大人用の紙おむつにつきましては約5,000枚、子供用の紙おむつにつきましては約1万4,000枚、簡易用トイレにつきましては約2万4,000回分を備蓄しておるところでございます。今後は、本市の関係所管の意見や他市町村の事例などを参考にいたしまして、様々なニーズに対応できるよう努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○清川希代子 ありがとうございます。

生理用品や簡易トイレ、おむつなどの備蓄をしていただいていることには以前より感謝しております。ただ、ご答弁いただいたように、今後さらに多様なニーズに対応できる備蓄体制の整備を進めていただくことはよろしく願いいたします。現在の生理用ナプキンの備蓄数量1万5,000枚、これは例えば能登半島地震のような激甚災害が香芝で起きた場合、また避難所での生活が長期化した場合、困る方が多くなってしまいます。香芝市は大丈夫じゃ

ないという市民さんの声があることもご存じだと思います。香芝市民の皆さんのご心配を払拭してさしあげるためにも、数量の見直しを何とぞよろしくお願いいたします。

今まで質問してきましたが、市民さんの自助の備えにおける意識向上のための取組を早急に強化する必要があると考えますが、いかがでしょうか。

○**危機管理監** 議員の申されるとおり、必要であるとは考えてございます。日頃より自治会や自主防災組織におきまして開催されます防災訓練などに参加させていただいた機会や出前講座などで訪問した機会を捉えまして、自助・共助の大切さや自らの安全は自らが守るという意識を持っていただけるようお伝えしておるところでございます。

以上でございます。

○**清川希代子** もともと意識が高い方はご自身でより高くなってくださると思うんですね。そうではなくって、何とかなる、自分は大丈夫と思っている方、まだ何の備えもしていない方に、実際に驚くほど私は多く出会います。例えば、つい先日、農林水産省の食生活・ライフスタイル調査によると、食料備蓄をしていない人は全体の37.1%、20代、30代の若い世帯では4割強に上ると新聞にも掲載されておりました。似たようなお話を香芝市内でも見聞きします。こういった方に対する自助の動機づけ、これが早急に必要だと思います。お一人お一人に対して地道な啓発は私も継続しておりますが、市としてもできること、さらに何か少しでも香芝市民さんを守るためにご尽力していただけないでしょうか。

○**危機管理監** 防災意識の高い方、そうでない方の判別は困難でありますけれども、繰り返しになりますが、広報等に掲載してお伝えするとともに、地元の防災訓練に参加させていただいたときなど、市民の方々と接する機会におきまして、まず自らの安全は自らが守るという意識や自助・共助の大切さをお伝えさせていただくようにいたします。

以上でございます。

○**清川希代子** 結構です。ありがとうございます。

防災対策について伺いました。市民の安全を守るために、今後も積極的な広報活動と訓練を続けていただき、全ての市民が防災に対する理解を深めることができるようよろしくお願い申し上げます。危機管理監、ご答弁ありがとうございます。

「学童保育所の充実について」

○**清川希代子** 続きまして大項目3、学童保育所の充実についてでございます。

今年の春休みから公立の学童保育所で配達お弁当の提供が始まり、負担が軽減され、喜んでくださっている保護者さんもおられます。長期休暇中の学童保育所における長時間保育では、以前から昼食に関する課題がありました。共働き家庭や独り親家庭にとって、給食がない長期休暇中、毎日昼食を準備することは大きな負担であります。今後も、保護者さんや児童の意見を反映し、具体的なニーズに基づいた配達お弁当の提供が継続されることを望んでおります。

中項目1では配達お弁当の導入経緯と新たな課題について、さらに中項目2では学童保育所の受入れ体制について伺ってまいります。

1つ目、香芝市内全ての公立学童で配達お弁当が提供される制度が始まりましたが、配達お弁当を希望される場合、幾つかのお弁当から選べるのでしょうか。また、お弁当はどのような業者なのか、伺います。

○福祉部次長 失礼いたします。

現在、市内の公立学童保育所全てに対応している市内の弁当屋と3小学校区の学童について対応している福祉センター内にあります業者の2か所に対応している状況でございます。

○清川希代子 2つの業者さんでの配達お弁当、2つの業者さんですね。配達お弁当を希望される方の申込方法とキャンセル対応、またその2つの業者さんの金額について教えてください。

○福祉部次長 申込みにつきましては、どちらの弁当を利用する場合でも、基本的に事前申込みをしていただく形となっております。金額につきましては、全学童保育所に対応している弁当屋は600円、もう一社は450円の弁当となっております。また、弁当をキャンセルする場合には、全学童保育所に対応している弁当屋は前日の朝まで、もう一社は当日の朝一番に連絡を行えば対応していただくと確認しております。

以上です。

○清川希代子 ありがとうございます。

2つの業者を単純に比較はしにくいですが、違いが結構ある印象であります。

ちなみに、アレルギー対応はされているのでしょうか。

○福祉部次長 今現在できておりません。その際は弁当をご家庭で作っていただいている状況でございます。

○清川希代子 承知いたしました。

宅配お弁当代は保護者さん負担であります。業者さんの選定には市は関与していますか。

○福祉部次長 あくまでも指定管理者であるシダックス側で決定しており、市が関与しているところはありません。

○清川希代子 承知いたしました。

一応の確認ですけれども、次の冬休み、今後も長期休暇で配達お弁当を継続されていくということよろしいでしょうか。

○福祉部次長 はい、議員おっしゃるとおりでございます。

○清川希代子 ありがとうございます。

ここで、この夏休み期間中に配達お弁当をご利用された保護者さんからのご意見を一部お伝えいたします。「毎日お弁当を作るのが大変なので助かっていますが、1食600円は高いと感じています。御飯は持参するので、弁当を御飯つき、または御飯なしの選択肢を設けて

価格を下げてほしい」、「子供が低学年なので、量を少し減らして300円程度にしてほしい」など、金額に関するご意見が多く寄せられました。配達のお弁当は春休みと夏休みの各1回、まだ各1回ずつ実施された状況では、利用者の数はまだそれほど多くない感覚とも伺っております。一方で、「利用したいけれども、価格が高いため毎日は利用できない。もう少し価格を下げてほしい」との声も寄せられております。配達お弁当の提供は保護者さんや子供たちの負担軽減に寄与しており、非常に評価されております。今後も、保護者さんや子供たちのニーズにより応え、より利用しやすいサービスとなることを期待しています。

シダックスさんに対して、これらの意見やご要望を伝えていただき、アンケート調査などを通じて保護者さんや子供たちの声を集めて、市としても積極的に働きかけを行うべきだと考えているんですけれども、市の見解はいかがでしょうか。

○福祉部次長 弁当の利用が必要であるご家庭に喜んでいただけるように、市や指定管理者としてお弁当に関する意見についてアンケート等を通じて聞き、その意見をそれぞれが情報共有しながら、弁当を利用したい、食べたいと思っていただけるように努めてまいります。

以上でございます。

○清川希代子 ありがとうございます。アンケートをぜひ行ってください。

配達お弁当は保護者や子供たちにとって非常に役立つサービスであり、今後もより利用しやすい形で継続することが重要であります。導入からまだ約4か月であり、まだそこまで利用者が多くはない、かつ様々な改善を望む声が寄せられております。例えば市内のお弁当屋さんのほうでは、現金のみの支払い方法に対する不便な点を受けて、この夏休みからアプリを使用してキャッシュレス決済に対応するなどの改善が行われております。このように、利用者のニーズに応じた改善は重要です。市としては、保護者さんや子供たちのニーズに応えるため、シダックスさんと協力し、配達弁当のサービス向上に積極的に取り組んでいきたいと思っております。より多くの家庭が安心して利用でき、学童保育所の充実にもつながると期待しております。引き続き、協力しながらサービスの質を向上させ、利用者の満足度を高めていくことを願っております。

続きまして、中項目2に移ります。

今年度、学童保育所を長期休暇中のみ希望された方が177名おられて、この夏休みに入所できなかった児童が11名いたと事前に伺っておりますが、受入れ体制を十分確保することが困難だったのでしょうか。通常よりも多くの入所希望者が予想される長期休暇中の学童保育において、どのような受入れ体制を整えていらっしゃいますか。もし受入れが難しい場合、どのように対応しているのか。この夏休みや今後の対応策について伺います。

○福祉部次長 失礼いたします。

この夏季休暇中に限らず、利用者多数の場合につきましては、各小学校など長期休暇中に使用しない教室を活用できるかどうか、学校側と協議しながら対応を行っているところでございます。また、指定管理業者のほうで受入れが行えるような人員の確保に努めていると

ころでございます。

以上です。

○清川希代子 ありがとうございます。

課題が見つければ前向きに改善してくださるとのご答弁だったかなと思います。今後も、市と保護者さんが協力し合い、学童保育所の質を向上させ、よりよい環境づくりに努めてください。次の冬休みには入所希望者全員を受け入れられるよう、引き続きご尽力をお願い申し上げます。

「性的マイノリティーの方々が暮らしやすい環境づくりについて」

○清川希代子 続きまして大項目4、性的マイノリティーの方々が暮らしやすい環境づくりについて伺ってまいります。

近年、私たちの社会は急速に多様性の尊重が求められる時代へと移行しています。その中で、性自認や性的指向に関する課題についても社会全体として理解を深め、差別のない社会を築くことが急務となっております。

香芝市においても、市民一人一人が安心して自分らしく暮らせる環境を整えることは非常に重要なテーマであると認識しております。私は、本市においても先進的な自治体の取組を参考にしながら、性的マイノリティーの方々に対する理解と支援を進め、地域全体がより一層多様性を尊重できるまちづくりを目指すべきだと考えております。このような背景を踏まえ、パートナーシップ宣誓制度の導入についてなど伺いたいと思います。

まず、1つ目ですね。性的マイノリティーに伴う差別の事例や悩みについてのお問合せは現在まで事例がないと事前に伺っておりますが、香芝市ではどのような理解促進の取組をしておられますか。

○市民環境部長 多様な性に関する理解や認識を深める取組として、くらしを考える講座の開催や、広報紙やホームページ等による情報発信、またパネル展を実施しております。そして、学校現場においては、市内中学校にゲストティーチャーを招いて、性の多様性に関する理解や認識を深める取組を行っているとの報告を受けております。その他、男性職員の育児休業取得の促進や起業予定者に対し起業セミナーや支援制度の周知など、性的マイノリティーを含む男女共同参画社会に向けた取組を行っているところでございます。

以上でございます。

○清川希代子 ありがとうございます。

くらしを考える講座は私自身何年も前から何回も行かせていただいております。香芝市のいい取組だと思っております。毎回勉強させていただいております。ありがとうございます。

様々な取組をしてくださっていますが、それらの取組の成果や市民さんの反応ははいかがでしょうか。

○市民環境部長 成果については指標や数値で報告することは難しいですが、男女共同参画講演会やパネル展での市民アンケートにおいて、「勉強になった」、「このような機会が持ててよかった」など、多くの喜びの意見をいただいております。今後も、広く市民に対して、性的マイノリティーの方々が安心して暮らせるよう、男女共同参画についての理解や男女共同参画社会の形成の促進を図ることを目的として、啓発に努めていきたいと考えております。

以上です。

○清川希代子 ありがとうございます。

市民が自分自身や他者について考える機会を提供し、当事者の声を直接聞くことは、感情的な共感と理解を促進する大きな役割を果たしていると考えます。また、市民さんからポジティブな反応を得ていることは、活動の意義が裏づけられたのかと思います。今後の継続的な努力、啓発活動をよろしく願いいたします。私も、くらしを考える講座など一層広めていきますね。ありがとうございます。

次、中項目2、パートナーシップ宣誓制度の導入について移らせていただきます。

仮にパートナーシップ宣誓制度を導入するとしたら、必要になってくるものは何でしょうか。例えば制度の導入の具体的な変更点や予算と人員の確保、制度設計の課題などを検討されたことはありますか。

○市民環境部長 パートナーシップ制度につきましては、本市としては、都道府県や市町村等の地方公共団体で整備するものではなく、国において、その是非も含めて、統一的に整備される事項であると考えております。奈良県においては、令和6年4月1日に奈良県パートナーシップの宣誓の証明に関する要綱が施行されたようでございますが、宣誓によって何らかの法的効果が生じるものとは考え難く、本市としては独自にそのような制度の導入に当たっての具体的に何が必要であるか等の検討はいたしておりません。

以上でございます。

○清川希代子 検討はされてこなかったということですね。承知いたしました。

では、市役所が性自認や性的指向に関する差別を解消し、多様性を尊重するために果たすべき役割は何でしょうか。お答えください。

○市民環境部長 香芝市では、第3次男女共同参画プランにおいて、「人権が尊重され、多様な生き方が選択できるまち香芝」を基本理念として、市民と事業者、行政とが連携し一体となって、市民それぞれが多様な生き方を選択でき、個人の能力と個性を十分に発揮することができる男女共同参画社会を目指しております。性的マイノリティーの方々が暮らしやすい環境づくりの実現に向け、推進体制、教育及び啓発、そして相談体制、それぞれの充実を図っていかねばならないと考えております。

以上でございます。

○清川希代子 ご答弁ありがとうございます。

推進体制の充実についてですが、性的マイノリティーに関する理解を深めるため、市役所

内の意識改革や職員研修についてはどのように進めておられますか。

○市民環境部長 香芝市では、性的マイノリティーに特化するものではございませんが、毎年、男女共同参画職員研修会を実施しております。今年度はアンコンシャスバイアスについての研修会を行いました。研修の内容にも、ジェンダーバイアスの影響を受けず、人を性別だけで判断し、または評価しないように心がけるような促しもございました。職員の意識改革について今後も検討してまいります。

以上です。

○清川希代子 ご答弁ありがとうございます。

これまでの質問とご答弁を通じて、現在の香芝市の方針がちょっと見えたかなと感じております。

最後に、市長に伺います。

パートナーシップ宣誓制度について市長のお考え、展望をお聞かせください。

○市長 先ほど市民環境部長からも答弁をいたしました。パートナーシップ制度につきましては、本市としては、都道府県や市町村等の地方公共団体で整備すべきものではなくて、国において、その創設の是非も含めて、統一的に国民的な議論を経て整備されるべき事項であるというふうに考えてございます。パートナーシップ制度自体が要綱で実施されている自治体もあるというふうには認識しておりますけれども、それ自体が特に法的なものでもございませんし、民法の家族法において日常家事代理権の付与の範囲にも当然入ってこないわけですから、そういったところで、日常生活においても、いたずらに地方自治体が独自にこういった制度を乱立させることによりますと、むしろ市民生活がある意味混乱をしていってしまうというふうにも思いますので、そういった側面も踏まえまして、私としては、冒頭申し上げたように、国において、国民的な議論を経て、統一的に整備の是非を検討されるべきものであるというふうに思っております。一方で、本市においても、国民が個人として尊重され、多様な生き方が選択できるまちづくりを推進していくことの重要性は十分に認識してございますので、その点はしっかりと進めてまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○清川希代子 市長、ありがとうございます。

確かに、国による統一的な法整備が望ましいかもしれませんが、香芝市がパートナーシップ宣誓制度を導入することで、ほかの自治体や国に対しても前向きな影響を与え、さらなる理解促進や政策の整備を後押しできる可能性があるかと私は考えます。

日本では2015年、東京の渋谷区と世田谷区で同性カップルを自治体が証明したり宣誓を受け付けたりできるようになりました。しかし、法律上の性別が同性同士のカップルは結婚ができないことで、たくさんの方で困ることがあります。パートナーシップ制度は国が法律で決める結婚とは全く違うものなので、例えば相続などの問題は解決もしません。

そんなパートナーシップ制度ですが、日本全体の人口に対するカバー率はもはや約85%

になっております。日本も変わってきております。2024年8月19日時点で導入されている自治体は463を超えました。奈良県内でも7月から桜井市がパートナーシップ宣誓制度を導入し、地域の多様性を尊重する環境を整えておられます。

香芝市も、こうした先進的な取組を通じて地域の魅力を高め、住民の安心感を向上させることができると私は考えておりますので、今回は前向きなご答弁をいただけませんでした。引き続き問題提起をしていきたいと思っております。いいきっかけになりました。ありがとうございます。

以上をもちまして、清川希代子の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。